

② 行事やまつり

わたしたちの村には、むかしから伝わるいろいろな行事やおまつりがのこっています。お正月の行事，3月の^{せつく}節句，5月の^{せつく}節句，七夕まつり，おぼん（八月踊り），十五夜のつな引きそのほか神社のおまつりなどがあります。それぞれ，自分の家でするおまつりもあれば，地区の人たちがみんなで楽しむ行事もあります。村の人たちは，行事やおまつりをとおして，みんなでなかよくくらししてきたのです。

それぞれの地区で行われているものを一つずつ調べてみましょう。

ア ^{うまかたおど}馬方踊り

一月に竹島の^{ひじり}聖神社で行われる踊りです。ほうそう（てんねんとう）よけの踊りで，今から約200年前から始められたものです。神社のけいだいに，このときだけおねがいして来ていただいたお伊勢様^{いせさま}をまつり，この前で2日間踊りつづけます。家によってそれぞれ決まった席をとり，チグン（べんとう）を食べるなどして，とてもにぎわったということです。見物人をせいりするために「だんな」とよばれる男二人が，「東西^{ぼう}棒」という大えだをついて，のっしのっしと踊り場を見回ります。

50年くらい前までは，この2日間，学校も休みにしていたほどだったそうです。



竹島の馬方踊り

今は、昔のにぎわいはなく、チグンをもっていく人も少なく、せきもとらずに立ち見をしています。

イ はっさくたいこおど 八朔太鼓踊り

硫黄島に伝わる踊りです。

けいちょう
慶長3年（1598年）さ
むらい たいしょう ながはまし
むらい 大将の長浜氏らが
さつま
薩摩のとのさまにしたがっ
て とよとみひでよし ちょうせんしゅつべい
豊臣秀吉の朝鮮出兵に
さんか
参加していました。そして、
たたかいに勝って帰ってき



硫黄島の八朔太鼓踊り

たことを祝って おおごんげん ほうのう
硫黄大権現宮に奉納したのがこの踊りです。 やはた
矢旗をせ
負い、たいこをむねにつけ、白いはちまきをした踊り手十数人と、 がさ
花笠
をつけた一人のかね打ちがいっしょになって踊ります。昔は、「北山神
社」「もろこしどん」で踊り、そのあと、島の中を踊ってまわっていま
した。これは、島のあくまを集めるという意味があり、さいごに海に
すてていました。今は、 くまの
熊野神社の前で踊っています。

また、踊りのと中に頭に大きな面をかぶり、みのを着た人たちが出
てきます。そして、手に持った木のえだで、島の人たちの体をたたいて
まわります。これには、人びとの体の中に入りこんでいる悪いもの
を追い出そうという気持ちがこめられています。

この硫黄島の八朔太鼓踊りは、県の みんぞく ざい してい
無形民俗文化財に指定されてい
ます。

このほかに、九月踊り、1月7日のクセンボ、1月15日のやくば

らい， 8月15日の夜に行われる^{はしたまつ}柱松などがあります。

ウ ^{めんおど}面踊り

この踊りは，大里に伝わる八月踊りの一つです。

踊り子は十数人が，思い思いのぼろの服を着て，腰にはひょうたんをぶらさげています。顔には，オニ，オカメ，ヒョットコ，カッパなどの，こわいような，おかしいような面をつけます。手には，すりこぎとしゃもじを持っています。

そして，「ヒョウ，ヒョウ」と，きみような声をあげながら，「ことしゃの分，来年まちやれ，道のこぐさに米がなる，アずいな，アずいな」などと，歌に合わせて，おもしろくおかしく踊ります。

これは，子どもやまごたちが，ますますさかえますように，また，田や畑の作物が，たくさんとれますようにと，いのるおまつりの踊りです。

この踊りは，面や踊りのしぐさなどに，なんとなく遠い南の国の踊りのような，ふしぎな感じを受けます。それで，もしかするととっても古いかおり高い踊りだったので



大里の面踊り

はないかと言われていました。

大里小・中学校の子どもたちも，この「面踊り」をたやさないようにと，毎年れん習をして，運動会の際に発表をしています。また，

この踊りは、テレビで放送されたこともあります。

エ ^{ほんおど}盆踊り

片泊の踊りは、
ほとんどお盆に祖
先のたましいをな
ぐさめるために行
われます。種類も
多く、太鼓踊り、
笠踊り、^{くよう}供養踊り
などがありますが、



中心になっている

片泊の太鼓踊り

のは、太鼓踊りです。

はじめに男の人たちが、火の神前と地の神前で花笠をもって踊ります。これを「ババナラシ」といいますが、これをすませないと太鼓踊りはできないことになっています。太鼓踊りでは、カネ・ナカダイコ・ジウテ・ヘヤという役があり、役によって、女の人のかっこうをしたり、太鼓を持ったりします。踊り歌を歌いながら踊りますが、ならびかたも、たてになったり、まるくなったりするのです。

供養踊りは、太鼓踊りをする人たちが、手ぬぐいではちまきをして踊ります。昔は初盆の家を一けんずつまわってしていましたが、今は、学校の運動場で初盆の家の家族や親類えんじゃがゴザをしいてすわっている前におどっています。

地区の人びとは、この大切な盆踊りをいつまでものこしていけるように、盆踊り^{ほぞんかい}保存会を作って努力しているのです。